

## 編集 後記

公衆衛生学領域の研究として、最近経済学的分析を駆使したものが頻りにみられるようになった。臨床経済学を教育研究分野としている私にとって、非常にありがたい傾向と考えている。とくに保健医療政策の評価には、多額の税金を投入しているので、必須と考えている。臨床経済学では政策の効果と費用を測定して、その効率性を従来の政策や他の政策と比較するものである。その結果は政策担当者に対して提供され、政策の中止や転換といった政策判断に反映されるべきものである。しかし、注意しなければならないことは、闇雲に行うのではなく、効果（指標を何にするかは重要な課題）が証明されている政策に対して実施すべきものである。当たり前であるが、逆に効果がないとされているもの（政策に限らず新医療技術でも同様）にこの主の分析は不要である。これは経済学的評価を行う以前の段階である。また、効果が不明の場合には、その効果の評価と同時に経済学的評価を組み込む研究計画を立てることもできる。もし途中で効果が証明されなければ、経済学的評価はそこで中止すべきとなる。その場合、効果の評価研究として大きなインパクトを与えることとなる。そもそも効果が証明されないものに対しては経済学的評価を実施することもなく、政策を直ちに変更すべきである。

多くの医師の研究者は臨床経済学と聞くと、経済学の達人でないといけないような印象をもつ。もちろん経済学の基礎的な知識は必要であるが、前述したように本研究の最も重要な部分は、効果の測定である。これは医師の得意とするところである。ある著名な本領域の経済学者曰く、「費用の測定は間違えても一桁、効果の測定は二桁三桁」。一人でも多くの方が本領域に関心を持っていただければ幸いである。（大久保一郎）

## 次号予告

### 原著

- 気道アレルギー予防策の策定における回帰二進木解析の有用性……………吉岡二三, 他  
 発作性上室性頻拍患者の Quality of Life  
 —カテーテル・アブレーションの影響—  
 ……………福田由紀子, 他  
 断酒会会員における抑うつと心理社会的要因  
 ……………加藤良寛, 他  
 農村地域高齢者の尿失禁発症に関連する要因の検討  
 —4年後の追跡調査から—……………金 憲経, 他  
 メタボリック症候群の発症に関する疫学的検討  
 ……………須賀万智, 他

### 資料

- 配食サービスの有無別独居高齢者の栄養状態  
 ……………酒元誠治, 他

## 英文誌への広告・学会案内・研究室紹介等の掲載に関するお知らせ

日本公衆衛生雑誌は、本年11月号を英文論文のみの号として発刊するべく準備を進めております。英文誌発刊は、日本語を母語としない方々にも広く日本の公衆衛生に関する研究や実践などを知ってもらうよい機会になると期待されます。そこでこの機会に、英文による広告、学会・研究会等の案内、研究機関・研究室紹介等の掲載希望をされる方は下記事務局まで9月末までにご相談ください。なお形式、字数、料金等に関しては、従来の日本公衆衛生雑誌における基準を原則とさせていただきます。

問い合わせ先：日本公衆衛生学会事務局

〒162-0022 東京都新宿区新宿1-29-8

TEL 03-3352-4338 FAX 03-3352-4605